

第33回

舟橋聖一顕彰

青年文学賞

〈作品募集〉



〈募集要領〉

1 応募作品

小説・随筆・戯曲・評論

※同一作品部門の応募は、1人1編に限る。

2 応募規定

400字詰め原稿用紙50枚以内(随筆については、10枚以内でも可)で縦書きとする。(ワープロ原稿の場合は、A4サイズ横・1行40字×25行で縦に印字し、400字詰め換算枚数を明記する。)自作未発表のものに限る。

※応募作品には、作品部門・題名・応募者の氏名(本名とそのフリガナ)・住所・年齢・生年月日・電話番号を明記した別紙(様式は問いません)を付けること。学生は、学校名と学年を明記すること。

3 応募資格

令和3年9月1日現在、満13歳以上満30歳以下の青年(平成2年9月3日から平成20年9月2日までに生まれた人)。

ただし、今まで入賞した作品部門での応募はできない(佳作を除く)。

4 締切期日

令和3年9月1日(水)※当日消印有効

5 提出先

〒522-0001 滋賀県彦根市尾末町8番1号
彦根立図書館「舟橋聖一記念文庫」事務局
電話:0749-22-0649

6 提出方法

郵送または持参(封筒の表には「青年文学賞応募作品在中」と朱書すること。)

7 その他

(1) 応募作品は、一切返却しない。

(2) 入賞作品の著作権は、彦根市に帰属する。

(3) 最終選考に残った作品は、受賞録に作品名、氏名等を記載することがある。

〈賞・賞金〉

正賞 賞状および舟橋聖一色紙

副賞 金 30万円

〈発表時期日〉

令和3年11月下旬(予定)

〈授賞式〉

令和3年12月(予定)

〈選考委員〉

佐藤 洋二郎

作家、元日本大学教授

藤沢 周

作家、元法政大学教授

増田 みず子

作家

富岡 幸一郎

文芸評論家、関東学院大学教授、鎌倉文学館館長



主催：彦根市

作家 舟橋 聖一



水戸高校時代から文学に傾倒。東京帝大国文科在学中、村山知義・川原崎長十郎らと劇団「心座」を結成し、新劇活動に没頭した。卒業後、明治大学で教鞭をとりつつ「文芸都市」、「近代生活」等の同人に参加。処女出版は、昭和5年(1920年)の戯曲集『愛慾の一匙』である。

昭和9年には雑誌「行動」に『ダイヴィング』を発表、行動主義を提唱し反響を呼び、翌年「文学界」の同人となった。

戦時中『悉皆屋康吉』を脱稿し、作家的地位を不動のものとした。

戦後、昭和27年(1952年)から10年間書き続けた「夏子もの」では、日本の季節感を濃淡鮮やかに描き、39年(1964年)『ある女の遠景』で毎日芸術賞を受けた。同年6月、開国の英雄・井伊大老を描いた『花の生涯』創作の功績により、彦根市名誉市民に迎えられ、41年には日本芸術院会員となった。

この頃から眼を患い、不自由な口述筆記で完成した『好きな女の胸飾り』で42年度の野間文芸賞を受賞。また50年(1975年)には文化功労者に推戴されたが、翌年1月13日急性心筋梗塞により、71歳の生涯を閉じた。

舟橋聖一氏と彦根市

作家・故舟橋聖一氏は、井伊直弼公を題材にした小説『花の生涯』を執筆し、それが後に映画や演劇となり、また第1回のNHK大河ドラマとして放映されたことで、大老・井伊直弼直弼公と彦根市の名が全国に知られるようになり、本市の発展に大きな力となりました。

そのため、本市では、このような多大なる功績をたたえ、昭和39年6月に、同氏に彦根市名誉市民第1号をお贈りました。

舟橋聖一顕彰青年文学賞

平成元年に、広く青少年の文学奨励をはじめ、教育・文学の振興を図るため、同氏を顕彰する文学賞として、全国の30歳までの青年を対象に「舟橋聖一顕彰青年文学賞」を設けることとなりました。

舟橋聖一顕彰青年文学賞は、文学の登竜門として、全国の青年各位から優れた作品を公募しています。



＜事務局＞

〒522-0001 滋賀県彦根市尾末町8番1号
彦根市立図書館内「舟橋聖一記念文庫」事務局
TEL 0749-22-0649 FAX 0749-26-0300